図書探訪　いわきの人物　名僧編

徳　一　とくいつ　生没年不詳・平安時代

徳一は、福島県の仏教の歴史において、僧として登場する最初の人物です。その出自や生没年など、不明な点が多いといわれています。興福寺（奈良県）などで仏教を学んだようです。

法相宗の僧で、活躍した時代は平安初期とされています。空海や最澄と同時代の人物で、最澄との激しい論争「三一権実諍論」は有名です。

筑波山の中禅寺、会津地方や磐梯山麓など各地に伝承が残っていますが、いわき地方においてもその足跡を辿ることができます。徳一開創とするものに、磐城三薬師（閼伽井・波立・八茎）、長谷寺（常磐上湯長谷町）、法海寺（常磐藤原町）、忠教寺（平四ッ波）など多数あります。

国宝白水阿弥陀堂

いわき市内郷白水町の白水阿弥陀堂（国宝）は、平安末期、岩城忠衡を供養するために建立されたと考えられています。

仏教の教えでは、釈迦が入滅して 1500 年後に末法という時代になり、世の中が乱れるとされました。その年が平安時代の永承７年にあたり、現世に極楽浄土を求める浄土信仰・阿弥陀信仰が盛んになりました。

白水阿弥陀堂の建築様式には、当時の時代背景が色濃く反映され、阿弥陀堂を苑池が囲む浄土式庭園の境域は、国指定の史跡となっています。

内陣には、本尊阿弥陀如来坐像をはじめ、観世音菩薩、勢至菩薩、地国天立像、多聞天立像の５体（国指定重要文化財）が安置されています。

良栄上人　りょうえいしょうにん　貞和３年（1347）ー応永 35 年（1428）

良栄上人は、浄土宗名越派の学僧です。現在のいわき市小川町の生まれで、幼少のころに出家し、如来寺（平山崎）で修行しました。その後、折木・成徳寺（広野町）に移り良天上人に学び、第２代住職となります。応永４年(1397) より各地を巡って教えを説いたのち、下野国（栃木県）芳賀郡舟橋に舟橋談所を開きました。応永９年には、大沢（栃木県益子町）に円通寺を建立します。良栄上人は、ここで門下の養成に努め、大沢文庫を設けました。

また、浄土宗の教えをやさしく解説した著述を多く残しました。それらは『大沢見聞』と称され、名越派の教えを一般に広めたため、上人は名越派中興の祖ともいわれています。

袋中上人　たいちゅうしょうにん　天文 21 年（1552）ー寛永 16 年（1639）

袋中上人は西郷村（いわき市常磐西郷町）の生まれです。7 歳のとき能満寺の存洞上人にあずけられ 14 歳で剃髪。その後、如来寺（平山崎）、専称寺（平山崎）、大沢・円通寺（栃木県益子町）などで修学。25 歳で増上寺（東京都港区）に入ります。諸国を旅しながら修行を続けたのち、29 歳のとき折木・成徳寺（広野町）の第 13 代住職として帰郷します。

慶長 4 年(1599)には、領主・岩城貞隆が大舘の飯野平城内に菩提院を建立し、上人を招請して開山と仰ぎました。ところが慶長 7 年、岩城氏は徳川家康の怒りにふれ秋田に移封され、菩提院も城外に移ることになりました。上人はこれを機に、「明（中国）に渡って修行し、経典を持ち帰りたい」というかねてからの希望を叶えるため、郷里を離れる決意をします。52 歳でした。上人は船での渡明を試みますが入国は許されず、しかも帰路は東シナ海をまわったため、琉球（沖縄）に上陸し、この地で 3 年を過ごしました。

慶長 11 年に帰国の途につくと、郷里には帰らず、京都や大和国などで布教活動を行いました。京都の伏見屋次郎兵衛は深く帰依し、檀王法林寺を造営、上人を招きました。上人は、その後も各地で寺院を再建するなどして、88 歳で亡くなりました。

祐天上人　ゆうてんしょうにん　寛永 14 年（1637）ー享保 3 年（1718）

祐天上人は浄土宗の僧です。現在のいわき市四倉町上仁井田の新妻家に生まれました。

叔父の休波より仏の教えの大切さを教わり、その話に感動し僧になることを決心します。12 歳のとき出家をし、江戸・増上寺の池徳院に入り、袋谷の檀通上人の弟子となります。その後、檀通上人に付き添い、善導寺（群馬県）、弘経寺（茨城県）、光明寺（神奈川県）などに赴き、厳しい修行を行いました。檀通上人が亡くなった後は、再び増上寺で学問を深めていきます。50 歳を過ぎたころより牛島（現在の東京都墨田区）に隠居します。毎日念仏を唱え、「南無阿弥陀仏」と紙に書いて過ごしました。この祐天上人が書いた名号は、ご利益があるとして人気が高まり、その後将軍家とのつながりも強くなりました。

宝永元年(1704)、江戸の小石川にある伝通院の住職に、正徳元年(1711)には徳川家菩提寺の増上寺の住職となり、大僧正となりました。享保 3 年(1718)、82 歳で亡くなり、その墓は東京の祐天寺と、故郷の四倉・最勝院にあります。

原 坦山　はら たんざん　文政 2 年（1819）ー明治 25 年（1892）

原坦山は、磐城平城下の白銀町（いわき市平字白銀）に、安藤家の重臣新井勇輔の長男として生まれます。幼名を良作といいました。

良作は神林復所に儒学を学び、15 歳で江戸の湯島にある昌平黌に進みます。しかし、父が浪人となり、山崎家に嫁いだ姉や幼い妹弟と生き別れることになりました。

その後、駒込にある曹洞宗の吉祥寺で修行僧に儒学を教えていた時、儒学と仏教ではどちらが正しいか、という論争が起き、負けた良作は浅草にある総泉寺の永泉和尚のもとで修行を始め、諱名を覚仙、字名を坦山と改めます。その後、達宗、廻天、風外と高名な僧のもとで教えを受けました。

明治時代になり、廃仏毀釈により仏教界が批判されるなか、坦山は再び仏教の教えを国民に伝えようとしました。明治 6 年、対立する人々によって僧侶の資格を取り上げられてしまいますが、同 12 年、東京大学内に設けられたインド哲学（仏教学）の講師に迎えられます。その後、曹洞宗の総本山に次ぐ最上寺の住職に、明治 25 年には曹洞宗の最高責任者である事務取扱（管長）に任命されました。曹洞宗大学林（現在の駒沢大学）総監も務め、同大学には彼の功績をたたえた記念碑が建っています。

>>> 参考資料 <<<

◆「いわきの人物誌（上・下）」いわき地域学會　いわき市　平成４～５年　(K/281/イ)

◆「いわき市史　第１巻　原始・古代・中世」いわき市史編さん委員会
いわき市　昭和 61 年　(K/210.1-1/イ)

◆「いわき市史　第６巻　文化」いわき市史編さん委員会
いわき市　昭和 53 年　(K/210.1-1/イ)

◆「福島県史　第 21 巻　文化２」福島県　福島県　昭和 42 年　(K/210.1-0/フ)

◆「図説 いわきの歴史」　郷土出版社　平成 11 年　(K/210.1-1/イ)

◆「いわきふるさと大百科」　郷土出版社　平成 19 年　(K/210.1-1/イ)

◆「いわきの寺」いわきの寺刊行会　いわきの寺刊行会　昭和 56 年　(K/185/イ))

◆「福島県仏教史」吉岡棟一　信楽社　平成３年　(K/182/ヨ)

◆「いわき史跡めぐり」佐藤孝徳・安濃廣美
いわき市観光物産協会　平成 15 年　(K/291G/サ)

◆「徳一と恵日寺　会津仏教の開祖」高橋富雄　FCT 企業　昭和 50 年　(K/185/タ)

◆「霊場・閼伽井岳」草野日出雄　はましん企画　昭和 56 年　(K/188/ク)

◆「徳一菩薩　よみがえる史上最高の名僧」菊地勇
いわきふるさとづくり市民会議　昭和 57 年　(K/182/キ)

◆「徳一菩薩　ひと おしえ がくもん」高橋富雄　歴史春秋出版　平成 12 年　(K/185/ト)

◆「徳一菩薩　第二集　菩薩への道」高橋富雄　歴史春秋出版　平成 13 年　(K/185/ト/2)

◆「高橋富雄東北学論集　第 17 集・第 18 集」高橋富雄
歴史春秋出版　平成 17・18 年　(K/212/タ/17)

◆「徳一とその周辺（上巻・下巻）」生江芳徳　生江芳徳　平成 19 年　(K/185/ト)

◆「巡礼ガイド 磐城三十三所観音霊場〈改訂版〉」草野日出雄　はましん　昭和 62 年　(K/186/ク)

◆「長谷寺志」梅宮茂　長谷寺　昭和 53 年　(K/188/ウ)

◆「良栄上人伝」大島彦信　円通寺・大島彦信　昭和 49 年　(栃木県立図書館所蔵)

◆「栃木県大百科事典」栃木県大百科事典刊行会　下野新聞社　昭和 56 年　(K/031/ト)

◆「潮流　第８報　ー忘れられた思想家良栄上人ー」佐藤孝徳
いわき地域学會　昭和 61 年　(K/051/チ)

◆「専称寺史」佐藤孝徳　平成７年　(K/185/サ)

◆「如来寺史」佐藤孝徳　松峯山如来寺　平成８年　(K/185/ニ)

◆「袋中上人餘光」信ヶ原良哉　檀王法林寺　昭和 13 年　(K/188/タ)

◆「袋中上人と檀王法林寺」京都国立博物館　京都国立博物館　昭和 63 年　(K/188/タ)

◆「袋中上人　一生い立ちとその行跡一」信ヶ原良文
だん王法林寺　昭和 63 年　(K/188/タ)

◆「袋中上人　開山と略伝」浄土宗涅槃山袋中寺菩提院　菩提院　昭和 63 年　(K/188/タ)

◆「袋中上人絵詞伝」弁蓮社袋中　榕樹書林　平成 15 年　(K/188/タ)

◆「沖縄エイサー誕生ばなし」御代英資　東洋出版　平成 20 年　(K/188/タ)

◆「祐天上人伝」村上博了　祐天上人 250 年忌記念事業委員会　昭和 43 年　(K/188/ユ)

◆「祐天さま」　祐天寺　昭和 43 年　(K/188/ユ)

◆「祐天大僧正一代御伝略記」阿部崇順　護念山最勝院　出版年不明　(K/188/ユ)

◆「江戸の悪霊祓い師（エクソシスト）」高田衛　筑摩書房　平成３年　(K/188/タ)

◆「祐天寺年表　1～4」祐天寺研究室　祐天寺　平成 10～20 年　(K/182/ユ)

◆「祐天寺史資料集　1～4・別巻」祐天寺研究室　祐天寺　平成 14～20 年　(K/188/ユ)

◆「寺宝で綴る　祐天上人と祐天寺」祐天寺研究室　祐天寺　平成 17 年　(K/188/ユ)

◆「坦山和尚全集」原坦山　光融館　明治 42 年　(K/188/ハ)

◆「原坦山伝」須藤春峰　平活版所　昭和 38 年　(K/289/ハ)

◆「大乗起信論両訳勝義講義」原坦山　万昌院功運寺　平成３年　(K/181/ハ)

◆「いわき市の文化財」　いわき市　平成 15 年　(K/709/イ)

◆「浜通りの仏像」福島県立博物館　福島県立博物館　平成３年　(K/069/ハ)

◆「総合佛教大辞典」　法藏館　平成 17 年　(R/180.3/ソ)

◆「全国霊場大事典」　六月書房　平成 12 年　(R/186.9/ゼ)

◆「日本古典文学大辞典」　岩波書店　昭和 59 年　(R/910.2/ニ)

2010 国民読書年

会期　平成２２年(2010) ２月１日(月)－４月２５日(日)
会場　いわき総合図書館５階　企画展示コーナー